

例会報告

第2387回例会報告議事録

日時 27年6月9日(火曜日)

場所 レストラン「ポアロ」

時間 12:15点鐘

ロータリーソング「奉仕の理想」

ゲスト：我孫子市役所 観光課

山口様 稲垣様

会長挨拶

上村文明会長



梅雨に入ったそうです。健康には留意していただきたいと思います。

前回、私の年度の最終理事会が行われました。

我孫子市制45周年式典が7月1日に行われます。瀧日次期会長に行っていただくようお願いいたしました。

ネパールの地震災害に対し会員一人当たり千円を目安に募金をお願いしたいとの連絡が地区ガバナーからありました。ぜひご協力をよろしくお願い致します。

6月30日に、新旧交代式の後、柏の葉のバーベキュー施設でバーベキュー大会を行いたいと思っております。社会奉仕委員会のロータリーデーも兼ねていますので、ご家族の方、お孫さん、知人の方をぜひ呼んでいただきたいと思っております。小学生以下は無料、中高生、一般の方は千円、会員と奥様は5千円の会費になります。

本日は松本ガバナー補佐と丸田ガバナー補佐幹事は10分区分にお礼参りということで行っていらっしやいます。今日のガバナー月信の7ページに松本ガバナー補佐の「一年を振り返って」という文章が載っています。11ページにガバナーノミニの確定宣言というのが載っており、柏の寺嶋さんが次の次のガバナーになられます。

次年度の委員長をやる方に活動計画書の依頼が丸田次年度幹事より来ていると思っておりますが、来週の例会までに作成して提出してくださいとのことです。どうぞご協力の方よろしくお願い致します。

ロータリーの友に、丸亀の横田会員が「ロータリーを一口で言うならば」という内容で書かれています。色々な方がロータリーは人生の道場である、ロータリーは見えない所に仕事があり、目立たない所に妙味がある等言われています。「ロータリアンは例会に出席することで奉仕の心を学び、その心を持ったロータリアンが自分の職業を通じて世の中に貢献していく、これがロータリーの目指す所である。ロータリーは学校のような所で、例会で異業種の方々と交わり、職業倫理、人間性を高め、その心を家庭、会社、職場へと及ぼしていく、そういうことを目標としている。つまり、ロータリーの使命とは例会において会員を立派なロータリアンに育てる事でありませぬ。」と横田会員は書かれています。なるほどと読まさせていただきました。

我孫子クラブでも若い方がJCを卒業して来られています。その方々が立派に育つように、我々が先輩会員として援助していかなければいけないのかなと感じています。うわべで流されるロータリアンではなく、地に足の着いたロータリアンでありたいと思っております。

今日は50周年実行委員会があります。メンバーの方々はよろしくお願い致します。私の任期はわずかですが、方向性が決まるといいなと思っております。

ジャパンボードフェスティバル協賛のお願い

我孫子市役所 観光課 山口様、稲垣様



貴重なお時間をさいいただきましてありがとうございます。毎年、ジャパンボードフェスティバルにご協力ご支援をいただいております。今年もぜひご協賛を頂けないかと思っております。誠にお願いに参りました。ジャパンボードフェスティバルは今年15周年を迎え、我孫子市市制45周年と合わせて盛り上げて行こうと準備を進めているところです。日本各地の団体の方々、海外からのお客様もお迎えします。10月31日(土)、11月1日(日)に行われます。ご検討よろしくお願い致します。

親睦委員会報告

荒井委員長

6月のお誕生日、米田会員、おめでとうございませぬ。結婚30周年、鎌田会員、おめでとうございませぬ。



米田会員より

ありがとうございます。47歳になりました。先日、ほぼ初めてに近い人間ドックに行って参りました。特に異常はありませんでした。生まれてこのかた大きなケガや病気もしたことがありません。最近はお母様が年老いてきたので、それを見ていて、元気に生んでくれた事、大きなケガも事故もないように成長させてくれて親に本当に感謝しています。

自分で事務所を立てて、ちょうど10年になります。

それも皆さんのおかげだと思っております。感謝しております。ありがとうございます。



鎌田会員より

ありがとうございます。30年も経つと、空気とは言わないのですが、私にとっては良い人と結婚したのかなと思います。文句は言わない。時間がなくて、ごめん、掃除できない!と言って外出して戻ると、きれいになっていたり、足りない所は本当に手を貸してくれます。これから先、空気以上に大事な人になってくれることを願って、まだまだ続いていきたいと思います。

出席報告

依田委員長

21名出席(全員で24名) 出席率87.5%

弁護士セミナーについて

依田会員



ちょっとPRをさせてください。

アピホセミナーというのをやっています。3回目になるのですが、今回、得居先生という弁護士の方をお呼びして、近年増えている訴訟についてセミナーを開きます。

最近、労働訴訟が多いそうで、アディーレ法律事務所というところが会社を解雇された人をつかまえて、前にいた会社に訴訟を起こすそうです。法律は労働者に有利に作ってあるので負けてしまうのですが、最低限防御できるようにした方がよいと、得居先生はおっしゃっていました。得居弁護士は何年前の得居ガバナーの息子さんです。

6月13日(土)1~3時に私の事務所で行います。入場無料ですでお時間ありましたら是非来て頂けたらと思います。

社会奉仕委員会報告

塩毛委員長

6月30日(火)の新旧交代式の時にロータリーデーも一緒に開催させて頂くことに、5月の理事会で決めさせて頂きました。新旧交代式を柏の葉キャンパスにあるレストラン・ディ・オークビレッジという所で行うのですが、普段は会員だけで行うところを今回はロータリーデーということで、もう少し広くロータリーを知っていただくために皆さんのご家族やご友人、またロータリーに勧誘したいと思っている方等に声をかけていただき、6時から遅くとも9時まで一緒にワイワイガヤガヤお話できればと思います。どうぞよろしくお願い致します。

幹事報告

服部幹事

特にございませぬ。

卓話

村越会員



昨年1月に入会させていただいて、初めて卓話をさせていただきます。

初めてですので、私の仕事について少しお話をさせていただきます。職業分類では木材販売です。店の屋号は村越材木店と言います。以前、木材と材木の違いって何?と服部会員から聞かれたのですが、明確に答えられませんでした。調べた所、木を伐採して様々な用途に用いるのを木材と言い、木材を製材して板等にしたものを材木と言うそうです。ただ、広辞苑では木材も材木も置き換え可能となっていますが、流通の末端に行くほど材木になる、と書いてあります。

木材商がいつから始まったのかと言うと、時代劇とかには大体悪役で出て来るのですが、今の形になったのは江戸時代だそうです。江戸城を築城するにあたって、全国各地からいろんな材料が集まり、江戸城ができて江戸幕府が始まったのですが、江戸に残った人達が日本橋あたりに材木店を構えたのが材木商の起こりだったそうです。

江戸時代は火事が多かったそうで、火事が起こると材木屋は儲かるらしく、財を成した材木屋もあったそうですが、材木自体が可燃物ということで日本橋はお城に近く中心街だったため、段々端に寄せられ、深川の木場という所に材木が集まったそうです。今ではマンションやビルになってしまっています。

村越材木店は昭和5年に私の祖父が創業しました。よく3代目は店をつぶすと言われていますが、私は3代目です。もともと材木店があった場所は我孫子町我孫子字宿(あざしゅく)という所で、うちの先祖も江戸時代は宿屋家業をしていたそうです。私の曾祖父、ひいおじいちゃんの時代には宿屋ではなくよろずやのような商売をして、私の祖父が木場の問屋さんに勉強しに行き、材木の商いを学んで我孫子に戻って小売店を開いたのが昭和5年だそうです。

材木の値段の付け方は現在は立方メートルでやりとりしますが、昔は1尺×1尺×1尺の尺貫法で、当時はそろばんで小数点以下のかけ算ができないといけなかったそうです。昔は、昼間は材木を実際に扱いながら、夜はそろばんを教える問屋さんが木場にたくさんあったそうです。地方出身の子弟に仕事を教えて、将来的には自分の顧客になるというメリットがあるため、だいぶ数は少なくなりましたが今でもそういう制度が残っているそうです。

私の祖父がやっていた頃はこの辺は松林が多かったそうです。昔は家を建てると言ったら必ず木造の軸組工法と言って、柱を立てた所に横材をかけて積み重ねていって周りに壁をつけるような工法だったのですが、松の木は梁(はり)といって上の重みを受ける横材に使いました。

(次ページへ続く)

うちも昔、木こりさん、馬車引きさんがいて、丸太を板にしたり柱にしたりする木挽きさんがいました。大鋸(おが)という三日月状の大きなのこぎりで切ると曲がらないのだそうです。余談になりますが、もともと大鋸(おが)が出す粉をおがくずと言っていたそうです。

松の梁とかはそんなに大した金額ではなかったそうなのですが、昔は和風建築には床の間がつきもので、床の間に使う材料はお刺身で言うところのトコなのだそうです。昔、神社には必ず大きなケヤキの木があり、そのケヤキの木を切るぞという時には祖父は出かけて行って、立っている状態で売買の契約をしたそうです。自分の目の高さの周囲がどれくらいかという目通りの太さ、枝のはえ具合等を見て値段を決めました。その木を木挽さんが板にすると中が空洞で大損することもあったそうです。

戦後の住宅ブームで、父の時代は材木を売ってくれと大工さんが頭を下げてくる時代もあったそうですが、私はそういう良い時代を経験をしたことはありません。

私は25年前、28の時にサラリーマンをやめて家業を継ぎました。昔と比べると材木を使う家が減っています。木造住宅でも、昔からの軸組工法と、アメリカから入ってきたツーバイフォー工法の二つがあります。ツーバイフォー工法というのは壁になっている状態のもの(パネル)を組み合わせて作る工法です。集合住宅が多くなり、木材を使う事は少なくなりました。和室も、あっても一部屋です。和室があっても床の間はありません。

昔の柱が見える工法だと節がない木を選んで建てますが、今は柱が壁の中に隠れるので柱にどんな木でも使えます。昔は家を建てると言ったら一家の家長がどうするか決めましたが、家の中の力関係にもよるのですが、今は奥さんに相談しないと家が建ちません。見えない柱に何をしようが関係ありません。今、材木屋は材木以外の住宅設備機器も扱いますが、本当の意味での材木を扱う機会は少なくなりました。

悪くなってきている話ばかりをしましたが、ここに来て、木のぬくもりや自然、健康等が見直されてきています。木を見せる事によって、木は呼吸をします。湿度の高い梅雨時は木が空気中の水分を吸ってくれますし、乾燥している冬場は木から水分が出てきます。そういう健康志向や自然回帰が多くなってきたので、材木も生き残って行くのかなと思っています。

つたない話でした。以上です。ありがとうございました。

ニコニコBOX

お名前	メッセージ	金額
鎌田会員	結婚祝ありがとうございました。	1,000円
村越会員	卓話させて頂きました。	1,000円
米田会員	誕生日ありがとうございました。	1,000円
当日計		3,000円
今期累計		325,000円

森の町内会「間伐に寄与する紙」の使用量と間伐促進面積

2014年度(2014年4月～2015年3月)

「間伐に寄与する紙」に付加されている15円/kgの間伐促進費は、人工林の間伐促進に充てられ、貴サポーターの環境活動として健全な森づくりに貢献しています。

貴サポーターにご支援をいただいた間伐促進費は、下記の用紙重量に15円/kgを乗じた額です。(活動の継続のため、2013年4月分から3円/kgを事務局経費とさせていただきます。)

間伐サポーター

我孫子ロータリークラブ 様

「間伐に寄与する紙」の使用日	印刷物	用紙重量(kg)	間伐促進費(円)	
20140620	会報	24.250	363	岩手の森の間伐に貢献
20140627	週報	24.250	363	〃
20140627	週報	19.125	286	〃
20141029	会報	24.250	363	〃
20141029	会報	19.125	286	〃
計		111.000	1,661	0.01 haの間伐促進に貢献
		(用紙重量は、 小数点以下3桁まで表示)	(消費税は別途)	間伐促進面積は、岩手県における 「森の町内会」活動による間伐の 実績値をもとに算出

今週の表紙「ハス群生地」 柏市岩井新田

「手賀沼ハス群生地」は「道の駅しょうなん」から徒歩約10分の場所にあります。7月下旬から8月にかけて見事に花が咲き誇り、夜明けと同時に開花する蓮の姿をひと目見ようと早朝から足を運ぶ人も少なくありません。鑑賞するなら午前中の早い時間帯がお勧めです。群生地の中まで入り、間近で蓮の花を見ることが出来る蓮見船もお勧めです。

ロータリーの友事務局 ホームページ www.rotary-no-tomo.jp メールは web@rotary-no-tomo.jp

環境NPOオフィス町内会が中心となって2005年に立ち上げた新たな間伐促進活動が「森の町内会」です。この活動に賛同して「印刷用紙」や「コピー用紙」を使用する企業は2009年9月現在、92社にのぼり、その環境貢献として促進される岩手県岩泉町・葛巻町・青森県三沢市での間伐は、年間30haの規模になっています。グリーン購入大賞で大賞を、山村カコンクールで林野庁長官賞を受賞しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

我孫子ロータリークラブは、環境貢献として、「森の町内会」を応援します。